岡本太郎（1911–1996）

1911（明治44）年、神奈川県川崎市に、人気漫画家の岡本一平と、歌人で小説家のかの子の長男として生まれる。東京美術学校に入学後半年で退学、父母の渡欧に同行して、1930（昭和5）年から10年間パリに滞在。当時の最先端の芸術動向や思想に触れ、「アブストラクシオン・クレアシオン（抽象・創造）」などの運動に参加する一方、パリ大学で哲学や民族学を学び、ジョルジュ・バタイユらと親交を深める。1940年の帰国後、兵役、復員を経て、戦後は旺盛な創作活動を再開。前衛芸術の旗手として話題作を発表する一方、縄文文化の再評価をはじめとする民族学的視点に基づく発信や、大衆に向けたパブリック・アートやプロダクトの制作など、多岐にわたる活動を続ける。1970年の大阪万博テーマ館のプロデュースでは、シンボルである〈太陽の塔〉とともに国民的な人気を博し、「芸術は爆発だ！」などの流行語とともに、晩年に至るまでメディアに頻繁に登場するようになる。生涯にわたり旺盛な文筆活動も続け、その生き方や思想も、作品とともに次世代に影響を与え続けている。

◎観覧料（税込）

一般 1,900円、大学生・専門学校生 1,300円、65歳以上 1,400円、高校生以下無料（日時指定予約必要）

日時指定予約制

※未就学児は日時指定予約不要。
※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添の方（1名まで）は無料（日時指定予約不要）。
※高校生、大学生・専門学校生、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、証明できるものをご提示ください。
※オンライン・プレイガイドでの購入・予約が難しい方を対象に当日の入場枠を設けておりますが、ご来場時に予定枚数が終了している場合があります。
※チケット発売日など詳細は、決定次第、展覧会公式サイトに掲載します。

◎音声ガイド

俳優の阿部サダヲさんが、ナビゲーターに初挑戦！
人間・岡本太郎とは何者か… 画家の言葉を交えながら、その真の姿に迫ります。

この度、展覧会 岡本太郎の音声ガイドナビゲーターを務めさせて頂くことになりました、阿部サダヲです！「音声ガイドナビゲーター」というお仕事は初めてですが、誰もが知っているあの「太陽の塔」が建ったのが、1970年。私が生まれたのも1970年！同い年！ライバル！やらせていただこうかなと… 資料を頂くと、知らない事もたくさんありました。その知らなかった岡本太郎を皆さまに分かりやすくお伝え出来るよう頑張ります！よろしくお願いします。

●会場レンタル版
1台600円（税込）

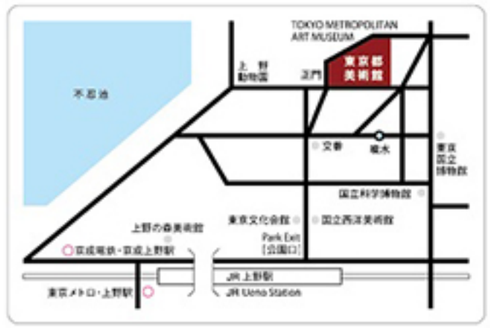
●アプリ配信版
配信料金730円（税込）
※会場限定トラック等をすべて含む完全版、配信期間限定

◎アクセス

〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36

○JR上野駅「公園口」より徒歩7分
○東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分
○京成電鉄京成上野駅より徒歩10分

※駐車場はありませんので、車でのご来館はご遠慮ください。



Venue: Tokyo Metropolitan Art Museum (Tokyo, Ueno-Park)
Dates: October 18 (Tue) - December 28 (Wed), 2022
Closed: Mondays
Hours: 9:30-17:30 (Until 20:00 on Friday) *Final admission 30 minutes before closing
Admission: General ¥1,900, College students ¥1,300, Seniors 65+ ¥1,400
High school students and younger Free
*Advance reservation via online is necessary. Please check the official website before your visit.
※土・日曜日、祝日及び会期末は混雑が予想されますので、平日または会期前半のご予約・ご来場をお勧めします。
※新型コロナウイルス感染症拡大予防の取組みについては、東京都美術館HPをご確認ください。

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

【表紙：コラージュ図版】/《太陽の塔》1970年 万博記念公園、《にらめっこ》1978年、《明日の神話》1968年、《若い太陽の塔》1969年、《訣別》1973年、《道魂》1988年　すべて部分
【裏：背景図版】/《夫来を見た》1971年、《夜》1947年、《まひるの顔》1948年、《空間》1934/54年　すべて部分
記載のないものは川崎市岡本太郎美術館蔵／岡本太郎ポートレイトおよびすべての作品 ©岡本太郎記念現代芸術振興財団

NHK番組「TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇」

「真剣に、命がけで遊べ」など、今に響く岡本太郎の言葉が主役の特撮番組。シュールででたらめな〈TAROMAN〉。対する奇獣たちは、〈疾走する眼〉〈駄々っ子〉など太郎作品を造形化。「なんだ、これは！」と誰もが驚く5分番組シリーズ。全10話、随時放送中。

NHK

展覧会

岡本太郎

Okamoto Taro: A Retrospective

2022 10.18［火］–12.28［水］ 日時指定予約制

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

［開室時間］9:30–17:30、金曜日 9:30–20:00（入室は閉室の30分前まで）［休室日］月曜日
［主催］公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団、川崎市岡本太郎美術館、NHK、NHKプロモーション
［協賛］NISSHA、三井住友海上
［展覧会公式サイト］https://taro2022.jp［展覧会公式Twitter］@okamototaro2022［お問い合わせ］050-5541-8600（ハローダイヤル）
※会期等については、今後の諸事情により変更する場合がありますので、展覧会公式サイト等でご確認ください。

展覧会公式サイト

最大規模のスケールで、人間・岡本太郎を体感

絵画、立体、パブリックアートから生活用品まで、強烈なインパクトのある作品を次々と生み出し、日本万国博覧会（大阪万博）の核となる「太陽の塔」をプロデュースし、晩年は「芸術は爆発だ！」の流行語とともにお茶の間の人気者にもなった岡本太郎。彼は、戦後日本の芸術家としてもっとも高い人気と知名度を誇るひとりでありながら、あまりに多岐にわたる仕事ぶりから、その全貌を捉えることが難しい存在でもありました。「何が本職なのか？」と聞かれ、彼はこう答えます。「人間 ── 全存在として猛烈に生きる人間」。18歳で渡ったパリの青春時代から、戦後、前衛芸術運動をけん引した壮年期の作品群、民族学的視点から失われつつある土着的な風景を求めた足跡や、大衆に向けた芸術精神の発信の数々、さらにアトリエで人知れず描き進めた晩年の絵画群まで ──。本展は、常に未知なるものに向かって果敢に挑み続けた岡本太郎の人生の全貌を紹介する、過去最大規模の回顧展です。

Best known for *Tower of the Sun*, the centerpiece of the 1970 Japan World Exposition (Expo '70), Okamoto Taro was one of the most popular and widely recognized artists in postwar Japan. After spending his early adulthood in Paris, where he moved at the age of 18, Okamoto's mature work established him as a leading figure in Japan's postwar avant-garde movement. He subsequently adopted an ethnological perspective in his search for disappearing indigenous landscapes, and produced a host of works imbued with an artistic spirit designed to appeal to the masses. This exhibition, the largest retrospective ever assembled, examines the entire aspect of Okamoto Taro, an artist who constantly dared to the challenge the unknown.

《傷ましき腕》1936年（1949年再制作） 川崎市岡本太郎美術館蔵
国際シュルレアリスム・パリ展に出品され、高く評価された作品。

《太陽の塔》1970年 万博記念公園
大阪万博のテーマ館として建てられた。高さは70m。本展では1/50の作品を展示。

《日の壁（旧東京都庁舎壁画原画）》1956年
岡本太郎記念館蔵
旧都庁舎の壁面を飾った巨大レリーフの原画。

《明日の神話》1968年 川崎市岡本太郎美術館蔵
メキシコのホテルの為に制作された幅30mの巨大な壁画。長らく所在が不明となっていたが2003年に発見され、修復を経て2008年に渋谷駅に設置された。本展では縮約11mの下絵を展示。

《燃える人》1955年 東京国立近代美術館蔵
1954年のビキニ環礁の水爆実験で第五福竜丸が被爆した事件をもとに描かれた。

《夜》1947年 川崎市岡本太郎美術館蔵
前衛芸術家らが集った「夜の会」の名称のもとになった作品。

《森の掟》1950年 川崎市岡本太郎美術館蔵
異質なものを画面に混在させた「対極主義」の代表作。

《重旗》1954年 川崎市岡本太郎美術館蔵
岡手の民俗舞踊「鹿踊り」に着想を得たといわれる作品で、うねる線に呪術的なものへの岡本の関心が反映されている。

約40年ぶり、ニューヨークから初里帰り！

《露店》1937年（1949年再制作） ソロモン・R・グッゲンハイム美術館蔵（ニューヨーク）